マンゴーの新梢抑制に

ターム®水溶剤

マンゴーで使えるようになりました！
（R4.8.30 適用拡大）

- マンゴーは早期の剪定や秋期の気温上昇等の影響で夏秋梢が発生します
- 夏秋梢が発芽したマンゴーは養分が乏しくなり翌年の着果に影響するおそれがあります
- ターム水溶剤はマンゴーの夏秋梢の伸長を抑え翌年の着果を安定化します

■適用内容（抜粋）

令和４年8月30日現在

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	1- ﾅﾌﾀﾚﾝ酢酸を含む農薬の総使用回数
マンゴー	**夏秋梢伸長抑制**	1000 ～ 2000 倍	50 ～ 300 ℓ /10a	新梢伸長期	２回以内	立木全面散布又は枝別散布	２回以内

その他、温州みかん、かんきつ、オリーブ（交互結実栽培の非収穫年樹）、かき（苗木）、キウイフルーツ（雄木）に登録があります。

⚠効果・薬害等の注意（抜粋）

- 本剤の所要量を所定量の水に希釈し、よくかき混ぜてから散布してください。調製した薬液はその日の内に使用してください。
- 本剤は植物ホルモン剤であり、散布条件によって薬効薬害に影響が現れやすいので他剤との混用はさけてください。また、アルカリ性農薬を本剤散布前後に近接散布することはさけてください。なお、マシン油乳剤を近接散布すると旧葉が落葉することがあるので注意してください。
- 散布直後の降雨は効果が減ずる原因となるので、天候を見極めてから散布してください。
- 過度の乾燥、着果負担などによって極端に樹勢の低下した樹では旧葉の落葉を助長するので本剤の使用をさけてください。
- 重複散布はさけてください。
- **マンゴーに使用する場合、伸長を抑えたい節が緑化した際に散布してください。気温が高く再び伸長することが予想される場合は、萌芽前に追加散布を行ってください。なお、散布時期が遅れると発蕾遅延が生じることがあるため時期を見極めて散布してください。**
- 極微量で植物ホルモン効果を示すので周辺作物にかからないようにしてください。
- 使用後の散布器具等は十分洗浄してください。
- 本剤は植物ホルモン剤であるので、使用に際して使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

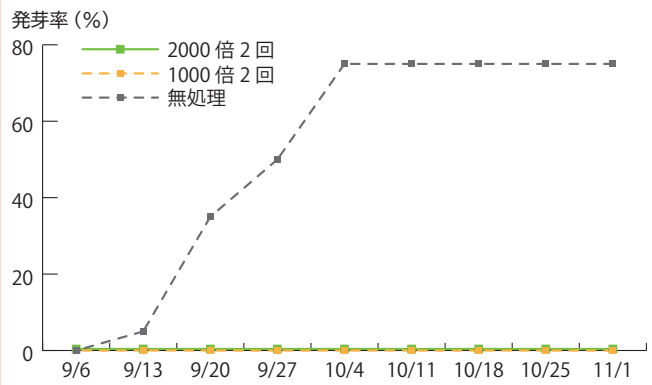
⚠安全使用上の注意

- 誤食などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- 散布の際は農薬用マスクなどを着用してください。

保　管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

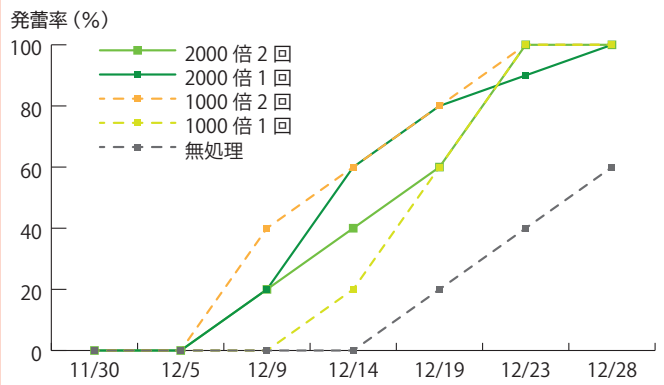
■試験成績

＜ 新梢の発芽抑制に対する効果 ＞



試験場所：宮崎県総合農業試験場亜熱帯作物支場（平成23年）
供試作物：マンゴー（品種：アーウィン）　７年生
　　プラスチックハウス地植え
処理時期：８月 30 日、９月 28 日　２回処理
散布水量：300 ℓ /10a

＜ 花蕾への影響 ＞



試験場所：鹿児島県農業開発総合センター（平成 24 年）
供試作物：マンゴー（品種：アーウィン）４年生
　　ポット栽培
処理時期：８月 30 日（1 回目）、９月 15 日（2 回目）

●ラベルをよく読んでください　●ラベルの記載以外には使用しないでください　●小児の手の届くところには置かないでください

植物成長調整剤

ターム®水溶剤 Q&A

Q ターム水溶剤はどのような薬剤ですか？

A タ ー ム 水溶剤は植物ホルモン「オーキシン」の合成化合物である 1- ナフタレン酢酸（NAA）を成分とする植物成長調整剤です。NAA は散布時期や濃度によって植物の成長に対して促進や抑制を示します。ターム水溶剤は主にかんきつの摘果や夏秋梢伸長抑制などで使用されています。

Q ターム水溶剤はマンゴーにどのような効果が期待できますか？

A マンゴーは剪定を行った樹の頂部から新梢が二節伸び、そこから花が咲き着果します。しかし夏秋梢（第三節）が発生すると、花芽の発生が遅れるなど不安定になります。剪定を早期に行った場合や、秋期の気温が高く推移した場合は夏秋梢（第三節）が発芽しやすくなります。このようなマンゴーに対してターム水溶剤を適期に散布することで発芽を抑えることができます。

Q 使用時期の目安はいつですか？

A 第二節が緑化すると第三節が発芽する前兆となります。このような時期にターム水溶剤を散布してください。第三節の発芽後に散布する場合は、効果が不十分になることがありますのでご注意ください。

Q 残効はどのくらいですか？ 2 回散布する必要はありますか？

A ターム水溶剤の残効は長くても 2 ～ 3 週間程度です。そのため、1 回目散布の 2 週間後以降に発芽が予想される場合に 2 回目散布を行ってください。昼夜温が高温で推移すると発芽しやすくなります。このような状態が予想される場合は 2 回目散布を行ってください。

Q 散布濃度は何倍が最も良いですか？

A ターム水溶剤はマンゴーに対して 1000 ～ 2000 倍で 2 回まで使用できます。県の試験機関ではいずれの濃度でも十分な効果が得られています。

Q 品種によって効果や薬害に差がありますか？

A 県の試験機関では品種「アーウィン」で試験を行っています。その他の品種での試験事例はありません。また、ホルモン剤ですので栽培条件・気象条件・樹勢等により効果に差が生じたり、樹体に悪影響を及ぼす可能性があります。はじめて使用する場合は小規模で薬効・薬害を確認するなど、注意してご使用ください。

Q 生育への悪影響はどのようなことが予想されますか？

A 散布時期が遅れた場合、発蕾に影響することが考えられます。

農林水産省登録 第 22388 号
®はアグロ カネショウ㈱の登録商標

AGRO KANESHO

製品の詳細はこちらから
ご確認いただけます ➡